

令和6年度第1回
長柄町総合教育会議 会議録



長 柄 町

令和6年度第1回長柄町総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和6年4月17日(水)

開会 9時00分

閉会 10時00分

2. 場 所 長柄町役場 2階 ミニホール

3. 出席者 長柄町 町長 月岡 清孝

副町長 若菜 一繁

長柄町教育委員会

教育長 酒井 昌史

教職務代理者 平原 由来

教育委員 加藤 士郎

教育委員 篠田 孝行

教育委員 久保 貴子

(事務局)

総務課長 白井 浩

学校教育課長 (兼給食センター所長) 西周 信幸

生涯学習課長 (兼公民館長) 石井 和子

総務課主査 (兼行政管財係長) 牧野 裕昭

学校教育課主査 (兼学校教育係長) 土屋 貴明

生涯学習課主査 (兼生涯学習係長) 土屋 亜矢子

書記 総務課副主査 木村 和秀

4. 案件 (1) コミュニティ・スクールについて

(2) 中学校の休日部活動の地域移行について

(3) 小学校のあり方について

(4) その他

5. 傍聴人 0名

(9時00分 開会)

月岡町長：あいさつ

議長選出 総合教育会議設置要綱第4条第1項により、町長が議長となる。

西周課長：案件1 今後の児童生徒数の推移と小学校の在り方について

案件2 中学校の休日部活動指導者の地域移行について

案件3 小学校のあり方について

案件4

学校教育課所管について説明

月岡町長：以上で、事務局による案件(1)から案件(4)までの説明が終了した。これより委員の皆様から意見を頂戴したい。

平原委員：コミュニティ・スクールについて伺いたい。これまでも、小学校及び中学校ともに地域の方々がたくさん関わってくれていることかと思う。特に中学校では稲作体験や伝統文化の指導等、長年に渡って地域の方々が関わってくれている。その一方で、このことについて、一部の地域の方々にボランティアが偏っているかと思われる。コミュニティ・スクールを導入することによって、今までの活動はより活動しやすく、知らなかった方々には知ってもらえる契機となることかと思う。

また、長柄町は、“中学生ボランティア”として中学生が活躍されていることが、素晴らしいことかと思う。

昨年度の6月、全国の教育委員会がオンラインで集まる機会があり、テーマがコミュニティ・スクールであった。この会議時に中学生ボランティアのことを発表すると、全国の方たちからたくさんのお関心を寄せられた。また、素晴らしい活動であると評価してもらえた。今後も中学生の方たちに活動を続けてもらえるように願っている。

西周課長：応援していただける言葉をいただき大変ありがたく思う。

社会総がかりで活動に取り組み、より良くしていくことが大きなテーマである。平原委員が言った通り、そのような方向に進めていけばよいと考えている。

酒井教育長：中学生ボランティアについて、貴重な意見をいただきありがたく思う。

こどもたちが地域の方たち関われることは、大人の方たちから認められ、自己肯定感が高まっていくという意味でも、大変有意義なことであると思っている。

こういったコミュニティ・スクールのことから地域の活度が益々広がっていくといいなと考えている。

篠田委員：コミュニティ・スクールのことで一点要望する。

長柄町の各小学校、中学校に対し、学校運営協議会を令和6年度4月から設置するという事になっているかと思う。

開始時期については、5月に小学校、中学校は未定となっているかと思う。見切り発車ではないのか。例えば、日吉小学校の誰がこの学校運営協議会を運営するのか。このことについて、明確に決まっていなくてスタートしているのではないのか。

コミュニティ・スクールのルール(規則、要綱)があるかと思う。協議会は、会長、副会長を置く。会長及び副会長は、委員の互選により選出する。ただし、対象学校の校長、教員、又は事務を行う者は、会長、副会長になることができないと記載されている。つまり、協議会は、会長が、開催、招集し、会長の指示で運営される。その会長は、校長や学校職員でなくてはならないと示されている、では、どこが会議を行うのか。

私の希望としては、教育委員会に事務局を置いて、教育委員会が日吉小学校の会議、長柄小学校の会議、長柄中学校の会議を推進して、そこに校長や教頭を呼んで実情を聞く形式でなければ、かつての方式と同じではないのか。かつての学校評議員制度は、“校長が”という主語があった。校長が招集した人たちに対し、校長が学校運営について説明し、問い、それに対して賛同を得るという会議であった。ところがこのコミュニティ・スクールにおいては、“会長が”という主語になっている。教育委員会に学校運営本部というものを設けて、事前に会議をして(長南町及び睦沢町でもやっている)、そこで日吉小学校、長柄小学校、長柄中学校の日程及び議案を明示して、会長とともに召集の通知を出し、12名の方々が集う。このスタイルが良いのではないかと個人的には認識している。実際に学校及び教育委員会に聞いてもはっきりしなかった経緯がある。今後、広く町民に対し知らせたいということであれば、その組織の充実(体制の強化等)を図り、今後、実施していくべきではないのかと考える。

実施主体を明確にするべきではないのか。3月の委員会では、明確に学校教育課が事務局であると明示された。これは、議事録に残っているかと思う。にもかかわらず、学校が事務局になってしまうような体制では、このコミュ

ニティ・スクール構想は全く意味をなさず、PTA 会議に毛が生えたような形か、学校評議員制度の拡大版みたいな感じになってしまうのではないのか。そのような発想にならないことを申し上げ、意見とする。

西周課長：このコミュニティ・スクールは、“車の両輪”的なイメージで推進していければよいと考えている。一つは、学校運営協議会という車輪である。二つ目は、地域学校共同本部という車輪である。この二つを上手く調整及び連携していく者が、コーディネーターである。ただし、令和6年度に関しては、スタートの年であり、コーディネーターも決まっていない。令和7年度については、コーディネーターを設置した形で協議会を行いたいと考えている。また、会長等について（誰を会長等に出すのか）は、第1回目の会議の中での検討事項にしてもよいかと思う。このこと（第1回目の会議に向けて）について、各学校で話し合いを進めていければよいのではと考えている。

酒井教育長：学校のことを心配していただきお礼申し上げます。

コミュニティ・スクールについては、一人一人の委員の活動が大事になってくるかと思われる。教育委員会の方でも学校と連携した事務局（協議会）について、しっかりとサポートしていきたいと考えている。委員や教育委員会等、みんなで学校を支えていけるように考えているので、ご意見をいただければと思う。

篠田委員：二点目の質問である。学校のあり方検討委員会についてである。

学校のあり方検討委員会で代表を務めさせてもらっているが、事務局は企画財政課であったと認識している。学校教育がこの資料を出すということは、かなり話しが進んでおり、事務局が移管されたということなのか。企画財政課で調整されていた、総合推進会議みたいなものをまず町として、推進していき、決定したら教育委員会に説明し、実施すると認識していたのだが、今日の話だと、責任所在というか、移管されてしまったのかと思ってしまふ。これはいささかブレーキをかけないと、大変なことになってしまうのではないのか。

白井総務課長：昨年度まで企画財政課において事務に携わせていただいていたのでお答えさせていただきます。質問の件についてだが、会議の事務局という立場として企画財政課において仰せつかっている。もちろん会議の中には教育委員会も入っている。企画財政課において行っている学校のあり方検討委員会の“共有の場”として今回の会議の案件に入れさせていただいたところであり、ご

了解願いたい。昨年12月の会議内容の詳細事項を教育委員の皆様へ報告する場がなかったことから、この場を借りて、現在の進捗状況、今後の方向性についての説明にとどまっているということで、ご理解願いたい。

篠田委員：庁内の体制が変わった（4月の人事異動で体制の変更があったこと）こともよく知らなかったので、今回の説明も難しかったと思う。しかし、あくまでも教育員会ではなくて町主体で行ってほしい。重要な問題であるので、ぜひとも慎重に進めて欲しい。

ここで、裏で先に話しが進んでいる（本会議資料で統合スケジュールが示されていること）とすると、敏感な議員さんもいることからちょっと勇み足ではないのか。

今までは、“統合”なんて言い方をせず、“あり方”という言い方をしていた。どこでこの書類ができたのかは知らないが、表に出す書類は、言葉の選び方をできるだけ慎重にしてほしい。

白井総務課長：長柄町には長柄町の地性やこれまでの経緯があると思うので、このことについては、承知しているつもりである。その中で、一般論として申し上げますと、学校統合という問題について他市町村では、再編に係る基本計画等を各教育員会で定め、その方向性に従って進めていくということになるかと思う。本町については、古くは、昭栄中学校、長柄中学校の統合の時から、地域間の問題となっていた体、また、政局的な問題もあったことから、今後のまちづくりの方向性についても、大きく影響を与える等のことから、町長部局である企画財政課が意見を取りまとめていく手筈となった。また、篠田委員がおっしゃった意見、配慮は、わたしもとても重要なことだと認識している。

その上で、これは教育的な視点に立った前向きな意見を議論していくという前提があるので、この会議の中で共有していきたいということを申し上げさせていただく。

篠田委員：中学校教育部活動地域以降について質問する。

長柄中学校の指導をゴーシュ音楽院で実施されているということだが、とても良いことだと思う。また、地域移行ということについて、スポーツだと、“中学校”という名前ではなく、“クラブ”として全国大会が認められている。

このことから、“学校”という名前にとらわれず、生涯学習としての社会教育スポーツの一環としてとらえる。又は、文芸的なものも、生涯学習の一つ

としてとらえて実施していければ、教員の負担が減るのではないのかと考える。又は、教員がその時に限り、身分を“指導者”としている地域もある。これは本人の意向であるが。

“クラブ化”というものについて、生涯学習スポーツで、青少年のクラブをクラブにやっけていかないとこの問題はなかなか解消されないかと思う。基本的に生涯学習の一環の中で中学生を含めた活動ができないか。先程、コミュニティ・スクールの話もあったが、これも一つの考え方ではないのかと考える。あくまで意見であるが、意思を持った子どもたちがさらに磨きをかけて、スポーツ又は文芸に親しむことがよりできるのではなかろうか。

西周課長：貴重な意見をいただきありがたく思う。

休日部活動地域移行については、地域の皆で地域の子どもたちを育てようという目的があるが、課題として、少子化による長期的な部員数の確保が困難であること、指導者が不足していること等の課題がある。このような中で、委員のご指摘の通り、社会、生涯学習の一環で進めていくことも一つの考え方であるかと思う。また、他の市町村の部活動参加も視野に入れているし、人材バンク的なところで地域の意向で進めているところもある。指導者が兼職でやっているところもあり、昨年度から始まったばかりなので、今年一年をやっけていく中で、より良い方法があれば検討していきたいと考えている。

酒井教育長：貴重な意見をいただきお礼申し上げます。

先日、長柄中の野球部の試合を見に行っった。長柄中と長南中の合同だとか、早野中と南中の合同だとかの状況になってきている。横のつながりで、現在やっているが、縦のつながりの集団の中で子どもたちが育っていくこともまた大きな意義があるかと思う。このため、いろいろな角度から子どもたちを皆で育てていく機会が増えてければと考えている。

平原委員：部活動についてだが、小学校では昨年度まで続いていた部活動が残念ながら廃止となってしまった。やはり教員に係る負担だとか児童の減少とかが理由であるとのことで聞いている。小学生でも部活動を続けていきたいと希望する児童がたくさんいるかと思うので、先程の話しでもあった、生涯学習の一環としての捉え方で、子どもたちにぜひチャンスを与えてほしい。“学校”という考え方だけにはとらわれず、“地域の中での活動”として門を広げてほしい。

西周課長：貴重な意見である。今後、検討していきたい。

月岡町長：その他について何かあるか。

西周課長：長柄町教育施策及び本施策に係る概要版を説明。

月岡町長：他に意見はあるか。

意見が無いため、議長の職を解かせてもらう。

貴重な意見をいただきお礼申し上げます。

牧野主査：以上で予定していた議題をすべて終了したので閉会とする。

(10時00分 閉会)